

六呂師高原における特定外来生物オオハンゴンソウの分布調査結果

福井県自然保護センター^{*1}・水口亜樹²・井ノ上リサ²・村野綾香²

要旨：福井県の六呂師高原において特定外来生物オオハンゴンソウの分布を調べた。2021年7月に六呂師高原を自動車で移動し、オオハンゴンソウを確認した地点の位置情報と生育地の規模を記録した。六呂師高原内でオオハンゴンソウを32地点で確認した。オオハンゴンソウの大規模な生育地は人間活動のある農耕地の近くにあった。オオハンゴンソウが河川の上流から下流に分布拡大したと推測される分布パターンがあった。

キーワード：オオハンゴンソウ、侵略的外来種、分布、六呂師高原

Fukui Nature Conservation Center^{*1}, Aki MIZUGUTI², Risa INOUE², Ayaka MURANO². 2022. Results of a survey on the distribution of the invasive alien species, *Rudbeckia laciniata*, in the Rokuroshi Plateau. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 25:205-208.

We conducted a survey on the distribution of the invasive alien species, *Rudbeckia laciniata*, at the Rokuroshi Plateau in Fukui Prefecture. The survey was conducted in July 2021 by car in the Rokuroshi Plateau, and we recorded the location and size of the habitat at the sites where we found *R. laciniata*. In the Rokuroshi plateau, we confirmed *R. laciniata* at 32 points. Large-scale growth areas were identified near agricultural fields with human activity. There was place where the distribution of *Rudbeckia laciniata* was assumed to have expanded from upstream to downstream area.

Key words: distribution, invasive alien species, Rokuroshi Plateau, *Rudbeckia laciniata*

はじめに

福井県にある六呂師高原は大野市北東部と勝山市の境に位置する、経ヶ岳と保月山のふもとに広がる標高520～850mの溶岩台地である(福井県自然保護センター2020)。六呂師高原は牧場として利用され放牧がおこなわれており、牧歌的な景観が広がる。また六呂師高原には県内でも数少ない湿原があり、湿地性の植物の貴重な生育地にもなっている。一方で、六呂師高原には外来生物法で特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウが侵入、生育している(福井県安全環境部自然環境課2011)。

オオハンゴンソウは北アメリカ原産の多年生草本であり、明治中期に観賞用に導入され、日本では北海道～琉球に生育する(自然環境研究センター2019、清水ら2001、北村1981)。路傍、荒地、河原、湿原など、肥沃で湿った環境に生育し、湿原や林床に生育する在来植物と競合し駆逐するため、日本各地の侵入先で問題となっている(自然環境研究センター2019)。六呂師高原にある池ヶ原湿原でも、オオハン

ゴンソウが希少な湿地性植物と競合し駆逐することを危惧し、地元の企業・団体・小学校や県、市などで構成される池ヶ原湿原保全・活用協議会はオオハンゴンソウの除去活動を実施している(福井県自然保護センター2018)。しかし、池ヶ原湿原の周囲にオオハンゴンソウが生育していると、除去活動を継続しても、そこからオオハンゴンソウが新たに侵入し、繁茂するおそれがある。逆に、池ヶ原湿原のオオハンゴンソウを起源として六呂師高原の他の場所へオオハンゴンソウが分布を拡大するおそれもある。このような危険性を把握するために、今、どこにどれくらいの規模でオオハンゴンソウが分布しているという情報が必要だが、六呂師高原でオオハンゴンソウの分布調査が実施されたのは2011年であり(福井県安全環境部自然環境課2011)、以降、調査および報告はされていない。

そこで、六呂師高原のオオハンゴンソウが池ヶ原湿原に新たに侵入する危険性、および池ヶ原湿原からオオハンゴンソウが分布拡大する危険性を把握するために、六呂師高原においてオオハンゴンソウの

* 執筆者・連絡・別刷請求先 (Corresponding author)：佐野沙樹 Written by Saki SANO. E-mail: s-sano-ri@pref.fukui.lg.jp

1 〒912-0131 福井県大野市南六呂師 169-11-2

Minamirokuroshi 169-11-2, Ono, Fukui 912-0131, Japan.

2 福井県立大学生物資源学部創造農学科、〒910-4103 福井県あわら市二面 88-1

Department of Sustainable Agriculture, Faculty of Bioscience and Biotechnology, Fukui Prefectural University. Futaomote 88-1, Awara, Fukui 910-4103, Japan.

分布調査を実施した。

調査方法

調査は平成 22 年度外来生物分布調査・駆除業務報告書（福井県安全環境部自然環境課 2011）を参考に実施した。2021 年 7 月 18 日に六呂師高原内の車道を自動車で移動し、オオハンゴンソウの生育の有無を確認した。また車道から把握が困難な場所の一部は歩いて生育の確認をした。

オオハンゴンソウの生育を確認した場合は、GPS

で位置情報を記録し、あわせて生育地の規模を 4 段階（ランク 1：畳 1 枚くらいまでの大きさ、ランク 2：コンパクトカーくらいまでの大きさ、ランク 3：大型バスくらいまでの大きさ、ランク 4:大型バスを越える大きさ）で記録した。

結果と考察

調査距離の総延長は 15.8 km であった。オオハンゴンソウを 32 地点で確認した。うち 13 地点は平成 22 年度の調査で確認していない地点であった（図 1）。

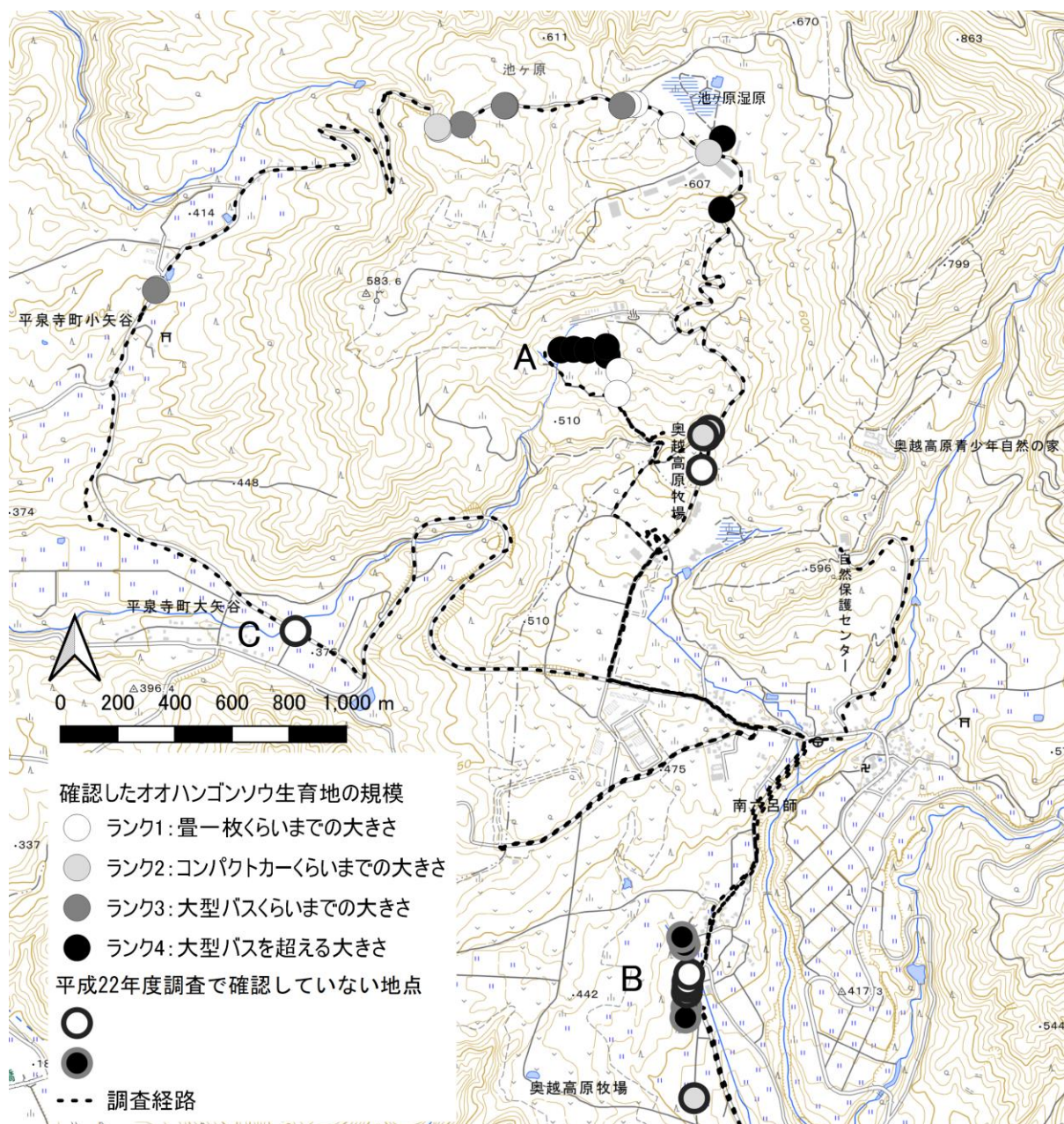


図1 調査範囲およびオオハンゴンソウ確認地点。図中の A, B は図2 と対応, C の説明は本文に記載。地理院タイルに調査経路, オオハンゴンソウの確認地点および一部の水路を追記

ランク別の内訳は、32 地点のうちランク 1 が 10 地点、ランク 2 が 9 地点、ランク 3 が 6 地点、ランク 4 が 7 地点であった。大規模な群落は、牧場の牛舎付近および農耕地の周辺にあった（図 1、図 2）。また大規模群落（図 1 の A、標高 530 m）の付近を通る河川の 1.5 km 下流（図 1 の C、標高 385 m）でオオハンゴンソウの生育を確認した。

オオハンゴンソウの種子散布型は重力散布である（浅井 2015）。重力散布では種子は親個体の付近に

落下し、親個体の生育する環境で定着することが多いが、雨水で流され河川に至りさらに下流へ運ばれる、あるいは靴の裏に泥と一緒に付着しさらに自動車のタイヤに付着して運ばれるなどの経路で長距離散布されることがある。今回の調査では、河川を経路として分布拡大していると考えられる分布パターンがあった（図 1 の A から C）。河川を経路とする分布拡大の場合、広がる方向は上流から下流に限られる。池ヶ原湿原は標高 608 m と六呂師高原の中でも高標

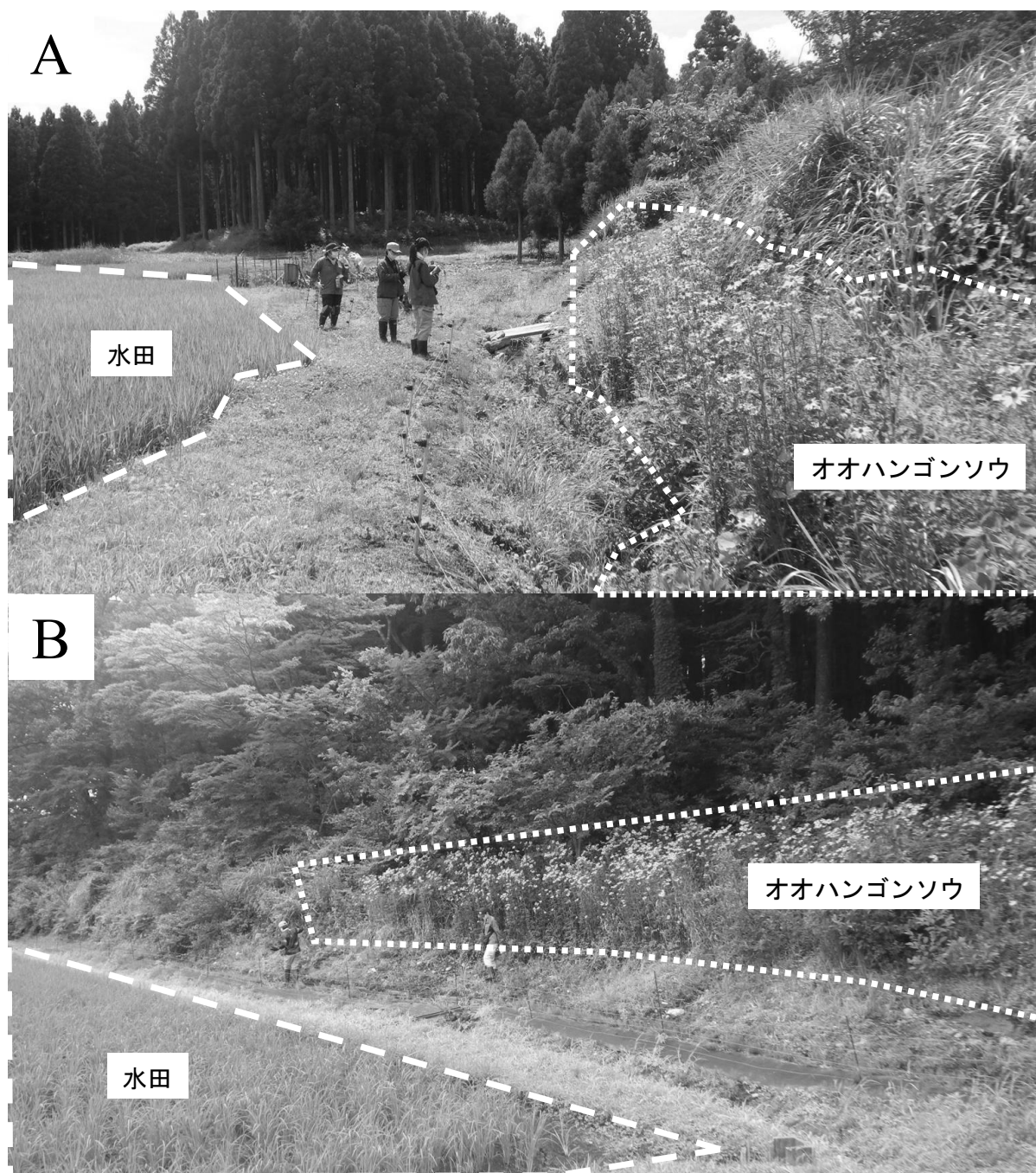


図2 オオハンゴンソウ確認地点の様子。A、B は図 1 と対応。図中の点線で囲った範囲は繁茂しているオオハンゴンソウ、破線で囲った範囲は水田。

高に位置しており、池ヶ原湿原でオオハングンソウの種子が大量に生産されると、そこから河川を通じて六呂師高原全体にオオハングンソウの種子が運ばれ、流れ着いた先でオオハングンソウが定着、繁茂するおそれがある。六呂師高原全体にオオハングンソウを定着させないためにも、池ヶ原湿原おけるオオハングンソウの除去および種子生産の抑制は重要である。

また今回の調査では、人間の活動のある農耕地等の周辺においてオオハングンソウの大規模な群落があった（図 1、図 2）。現在の大規模群落から靴裏、自動車のタイヤ等にくっつき、オオハングンソウの種子が運ばれ、池ヶ原湿原に新しく侵入定着するおそれがある。一方、池ヶ原湿原も自然観察会やオオハングンソウの駆除作業等、人間活動がある場所である。池ヶ原湿原のオオハングンソウの種子が六呂師高原に拡がることのないよう、活動の前後に靴をブラシで掃除するなどの取組みが必要である。

引用文献

- 浅井元郎. 2015. 植調雑草大鑑. 全国農村教育協会, 東京.
- 福井県安全環境部自然環境課. 2011. 平成 22 年度外来生物分布調査・駆除業務報告書.
- 福井県自然保護センター. 2020. 特集：奥越高原県立自然公園. ナチュラリスト 31 (1).
- 福井県自然保護センター. 2018. 特集：池ヶ原湿原の自然再生. ナチュラリスト 29 (1).
- 北村四郎. 1981. キク科オオハングンソウ属オオハングンソウ. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編）日本の野生植物 III 草本 合弁花類. 平凡社, 東京. p.174
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七. 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会, 東京.
- 自然環境研究センター. 2019. 最新日本の外来生物. 平凡社, 東京.